

**2019 年度 情報システム等の脆弱性情報の取扱いに関する研究会 第 1 回会合 開催結果概要**

- 日時: 2019 年 10 月 30 日(水)14:30 ~ 16:30
- 場所: 文京グリーンコート センターオフィス 17 階 貸会議室A
- 出席者(敬称略):
  - 座長: 土居
  - 委員: 歌代、垣内、北澤、栗田、柴崎、高木、高橋、谷川、西嶋
  - オブザーバ: METI 河本課長補佐;CSAJ 戸島;JPCERT/CC 宮地、椎木、洞田、伊藤、石川
  - 事務局: IPA 富田理事長、江口理事、瓜生、桑名、渡辺、土屋、板橋、木曾田、田中、井上、唐亀 MRI 村野、江連、小川、朱

- 決定事項:
  - ・ 本年度の研究会の活動方針について委員より承認を得た。

**●主な論点:****1. 昨年度の研究会における検討について**

- ・ 昨年度の調査研究成果は Web 上で公開した。

**2. 今年度の検討方針について**

- ・ 意見なし。

**3. ソフトウェア製品の脆弱性対処促進に関する調査について**

- ・ ソフトウェアの脆弱性対策だけでなく、マニュアルに記載する情報が公開されることによってもたらすリスク（記載されているパスワードが悪用等）も念頭に置いてほしい。
- ・ 攻撃手口等を記載した方が良いという意見があった一方で、現在の日本では攻撃手口の解説したものを公開するのは難しいと意見があった。
- ・ IPA の既存の資料と組み合わせるに役に立つ内容にしてほしい。
- ・ 脆弱性の対処については、体制に関するものだけでなく、注意しなければならない事項の具体例なども提示してほしい。
- ・ 「脆弱性対処を行わない場合のリスク」について、事例など具体的な内容を記載した方が良い。

**4. 一般消費者のリテラシー向上に関する調査について**

- ・ 一般消費者でも何をすれば良いかわかるように、できるだけ具体的に記載した方が良い。
- ・ 一般消費者に「脆弱性の対策をしなければならない」という理解が広がっているのかどうか調査する必要がある。
- ・ パッケージ製品や組込み機器等だけでなく、モバイルアプリ系も含めて対象にしたほうが良いのではないか。
- ・ ソフトウェアが組み込まれた製品を対象にすることをわかるようにしてほしい。
- ・ 他の組織の取組も踏まえて検討してほしい。
- ・ お試し版等、更新なしの機能限定商品に関するセキュリティ注意事項も記載する必要があるのではないか。

**6. スケジュールについて**

- ・ 第 2 回研究会は 11 月 22 日(金)15:00-17:00 で決定。
- ・ 第 3 回研究会は 12 月 25 日(水)13:30-15:30 で決定。

**7. その他**

- ・ CSS でパートナーシップの活動内容を説明。今後も引き続き学会等での周知啓発活動を行ってほしい。
- ・ 多くの企業はセキュリティに関する意識はあるが、あと一押しがほしい状態であるため、必要な情報を提供し、動いてもらうように努力してほしい。

以上